



「時の記憶」

二〇二二年一月

七月

金

六日

日

午前九時〜午後五時

繭と生糸は日本一上毛かるた
—お蚕様はわか子以上なり—

子供の頃 お蚕のこと おこさまと呼んでいた
桑を食う おこさまは しやりしやり しやあしやあ
水が漏れる おこさまは 寄せてくるような音が
蚕棚から 波が押し寄せ 部屋を這い 家中に聞こえてきた

朝露をしたたらせ 桑の葉が山のように積まれ
緑のふんぶんする桑の葉が山のように積まれ
桑こきをする男衆のチヨボクレ節が唄われ
家々は活気のあふれていた
この時季は 糞の臭いが村中を被った

出荷ともなれば 毎の巨大な袋が
繭が集荷場に山積み
蚕の時季は 猫の手も借りたい
村は祭のように

—蚕飼う人は—のすがたかな
住谷夢幻

UESUGI Kazumichi

SUMIYA Mugen

MASHIMO Kyoko

SAKAI Shigeyoshi

四人展 at 富岡製糸場西置繭所



展覧会開催に寄せて

『時の記憶』四人展 at 富岡製糸場西置繭所 実行委員会

『時の記憶』四人展 at 富岡製糸場西置繭所 を開催いたします。リニューアル後1年、西置繭所は、コンサート、結婚披露宴、そして展覧会会場として多くの市民ならびにアーティストに活用されて参りました。その歴史的遺産と近代建築構造の融合は、照明ならびに建築デザインの分野でも高い評価を得ることとなりました。歴史遺産の保存と活用というコンセプトは、着実に広がっていると思われれます。富岡市がこのことについて積極的に取り組まれていることには、改めて敬意を表したいと思えます。ともあれ、このデザイン性に富んだスペースは、極めて魅力的です。音楽は元より、ここに展示された造形作品は、空間と一つになって、新たなエネルギーを発信するように思われます。今回、製糸場が歩んできた歴史と、このスペースに魅せられた4人の作家それぞれの作品に宿る精神の歩みが、この会場の中で平行にあるいは対峙的に展開する、そのような企画を考えました。新しい年の初めに、世界遺産と共に歩み出せることの喜びを感じます。ご高覧の程、よろしくお願いたします。

上杉一道 (UESUGI Kazumichi/高崎市在住)

1958年 高崎市生まれ。

高崎高校在学中に山口薫に憧れ画家を志す
武蔵野美術大学卒(麻生三郎に師事)

現在 写真画壇会員・群馬県美術会理事・高崎市民展審査員

コメント

「世界遺産・富岡製糸場」…この空間に立つと まるでたった今そこに居たであろう人の息遣いが感じられるかのようです。

「遺産」と言うにはあまりに生々しく、変わり行く時代が目指した先へと進んでいく活力がいまだに息づいています。

前に進むこと…人が前進すること、その姿は今も少しも変わりません。

150年前の先達たちが「おおいなる未来」を目指したように、今私たちが目指す先には「おおいなる未来」はありますか？

住谷夢幻 (SUMIYA Mugen/前橋市在住)

1937年 高崎市東国分町生まれ。

「岡田芳保(夢幻)の書展」(東京・青い鳥ギャラリー)

「夢幻の書展」(東京・小川町ギャラリー)

「住谷夢幻 3.11 フクシマ」(前橋・ノイエス朝日)

「楢円展」(前橋・ノイエス朝日)

「3.11 フクシマ」64m 作品 (ウズベキスタン)

個展、グループ展多数

著作・展覧会

詩画集「住谷夢幻の16の花による版画」

セリグラフ=金子英彦

詩集「光・風・空」

「東国分往還」1～11号

真下京子 (MASHIMO Kyoko/高崎市在住)

1940年 館林生まれ。

館林中学校の書道部で教諭 関口虚想に影響を受ける。

1963年 東京学芸大学書道科卒業。

高崎市立女子高等学校(現)高経大附高書道科選任教諭。
授業実践と書壇への出品と両立させ制作。現在に至る。

主な個展等

「真下京子展」(1996/高崎シティギャラリー)

「真下京子書展」(2002/高崎シティギャラリー)

「生命の樹」(2004/煥平堂・前橋)

「心の中をかいまみすれば」(2014/ノイエス朝日・前橋)

「ことだまのひびき」(2015/有楽町朝日ギャラリー・東京)

「真下京子展」(2019/フレディリック、ハリスギャラリー
主催・東京アメリカンクラブ)

「ソウル書芸ビエンナーレ」招待出品(2008/国立芸術殿堂
ソウル書芸博物館)

「絹と墨」展(2021/富岡製糸場西置繭所)

※「書は世界に通じる芸術である」をモットーに書のエキスを残し新しい芸術の芽を模索している。世界遺産であり国宝という建築の中で前衛書はどういう波長を出すか。

酒井重良 (SAKAI Shigeyoshi/前橋市在住)

1948年 群馬県館林市生まれ。

1963年 栃木県立足利高等学校に進学。

教諭・石井壬子夫に影響を受け、美術を志す。

1970年 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。

群馬県立豊学校に赴任。(～2007) 児童生徒との交流の中で、知覚と思考と言語、表現と生きる意味について考える。授業での教材開発のため、様々な材料や表現方法を研究する。

2009年 群馬大学国際センターで、留学生に日本画を中心とした美術指導を行う。(～2018)

現在 群馬県美術会常任理事 日本版画協会会員

日本美術家連盟会員

<著作> 『酒井重良作品集 1963～2017』2017年自費出版

<作品発表> 個展、グループ展、コンクール、多数

※作家として様々なジャンルに挑戦すると共に、芸術文化の力により、社会貢献できるよう努めています。

『時の記憶』四人展 at 富岡製糸場西置繭所

会期：2022年1月7日(金)～16日(日)

9:00～17:00(最終入場16:30)

お問い合わせ：080-6684-5676(酒井)



富岡製糸場：〒370-2316 富岡市富岡1-1

電話 0274-67-0075

※富岡製糸場に入場の際は入場料が必要です。

入場料 大人1000円 大学・高校生 250円

小・中学生 150円